

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	成人聴覚障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部2年生		学期及び曜時限	前期 木曜3, 4限	教室名	4校舎301教室
担 当 教 員	高橋浩平	実務経験と その関連資格	言語聴覚士 急性期病院における聴覚検査および人工内耳・補聴器調整業務			
《授業科目における学習内容》						
聴覚の生理・病理をはじめとする基礎知識を学習し、さらに聴覚の評価・訓練における知識を深める						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版(医学書院)						
《授業外における学習方法》						
予習および復習を行うことが望ましい						
《履修に当たっての留意点》						
言語聴覚士免許取得において「聴覚」における知識の習得は必須である。聴覚の構造や各種聴覚検査の必要性を理解しながら、ひとつひとつに疑問を持つ姿勢を忘れずに講義に臨んでいただきたい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚の機能について理解する	教材	事前学習と該当項の通読	
		各コマにおける授業予定	聴覚のはたらき、聴覚の発達について学ぶ			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚障害について理解する	教材	事前学習と該当項の通読	
		各コマにおける授業予定	聴覚障害と難聴の分類について学ぶ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚のリハビリテーションについて理解する	教材	事前学習と該当項の通読	
		各コマにおける授業予定	臨床での聴覚における言語聴覚士の役割を学ぶ			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	音の特性を理解する①	教材	事前学習と該当項の通読	
		各コマにおける授業予定	dB,Hzについて学ぶ			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	音の特性を理解する②	教材	事前学習と該当項の通読	
		各コマにおける授業予定	音の大きさの特性と単位について学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	音の特性を理解する③	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	音の高さの特性と単位について学ぶ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚器官の解剖・生理を理解する①	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	外耳、中耳、内耳、聴覚路について学ぶ		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚器官の解剖・生理を理解する②	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	外耳、中耳、内耳、聴覚路について学ぶ		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚の病理について理解する①	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	伝音性難聴について学ぶ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚の病理について理解する②	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	感音性難聴について学ぶ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚機能検査について理解する①	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	自覚的検査(純音聴力検査)について学ぶ		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚機能検査について理解する②	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	自覚的検査(自記オーディオメトリー、SISI検査など)について学ぶ		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	聴覚機能検査について理解する③	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	他覚的検査(ABR、ASSRなど)について学ぶ		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	国家試験問題に挑戦	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	成人聴覚障害分野における国家試験問題の解答と解説		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	総復習	教材	事前学習と該当項の通読
		各コマにおける授業予定	1-13回の範囲を総ざらい		